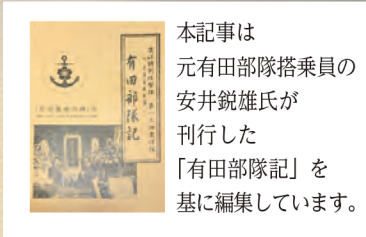


風化させずはならない

# 戦争・特攻の記憶



本記事は元有田部隊搭乗員の安井鋭雄氏が刊行した「有田部隊記」を基に編集しています。

太平洋戦争末期、17歳の少年飛行兵を含む201人の特攻隊員が「祖国のため」を合言葉に沖縄の空へと旅立った陸軍最後の特攻基地「万世飛行場」。南九州市知覧にある知覧基地などと共に多くの人がその存在を知り、戦争の記憶として刻み込まれていることと思います。

本市にはもうひとつ、特攻のための“基地”があったことをご存知でしょうか。戦後77年が経ち、戦争の記憶を持つ人が少なくなっています。私たちの暮らす地域で実際にあった戦争・特攻の記憶を風化させず、改めて平和の大切さを考えてみましょう。

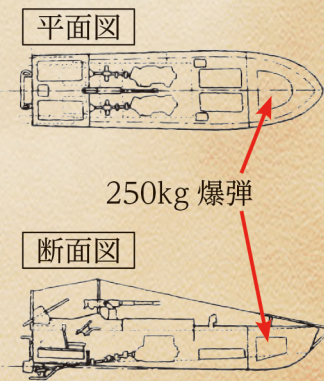
## 旧日本海軍

### 特攻隊「震洋」

海軍の特攻というと、「神風特攻隊」や「人間魚雷」が思い浮かぶと思いますが、「震洋」の存在を知っている人は多くはないと思います。

「震洋」は、太平洋戦争中盤以降に開発・実践投入した水上特攻兵器で、ベニヤ板と改造した車のエンジンで造られた長さ5メートルほどの小型ボートの艇首に250kgの爆弾を装備し、体当たりすることで敵の船舶を撃沈させるものでした。戦局が悪化し物資が不足する中でも量産が可能で、6千艇あまりが建造されました。本土防衛のため全国各地に配備されていました。が、粗末な造りであったことから、訓練中に沈没したり出撃しても敵艦にたどり着かなかつたりと、多くの命が戦わずして失われたと言います。

「震洋」という名称は、明治維新の船名から命名したもので、「敵艦を撃沈して太平洋を震撼させる」という意味もあつたようです。



震洋艇5型（二人乗り）  
※有田部隊記より転載

## アメリカ軍

### 幻の九州上陸作戦

日本を無条件降伏させるため、アメリカ軍が計画していた九州上陸作戦「オリンピック作戦」。1945年11月1日を決行日としていましたが、その前の8月15日に終戦となったため幻の上陸作戦となりました。決行されれば、吹上浜、志布志湾、宮崎県の3方面から58万人もの米兵が上陸し、南九州は焦土と化していたかもしれません。



## 第124震洋隊

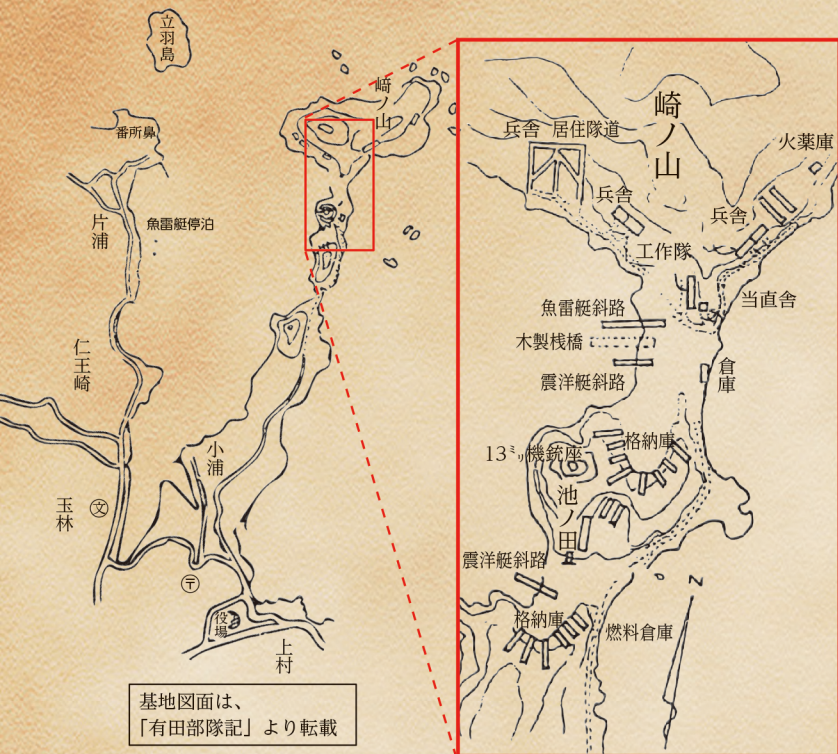
### 「片浦(崎ノ山)基地」

アメリカ軍が極秘裏にオリンピック作戦を計画していた頃、上陸作戦により沖繩を占領されていた日本軍は、次に九州南部へ本土進攻が行われると予測していました。この上陸作戦に立ち向かうため、九州沿岸に多数配備されたのが震洋特攻隊でした。

本市管内では、笠沙町片浦の

崎ノ山に第124震洋隊有田部隊、野間池に第130震洋隊橋本部隊、坊津町坊ノ浦に第123震洋隊近藤部隊が配備されました。(野間池と坊ノ浦については基地を造る前に終戦) 片浦基地は、部隊長有田牧夫中尉以下、総員232人、震洋艇5型26隻、魚雷艇2隻が配備されました。

## 第124震洋隊「有田部隊」配備基地 【片浦基地(崎ノ山)】



基地図面は、「有田部隊記」より転載

## 終戦後の悲劇

昭和20年4月に基地建設を開始してから終戦まで、片浦基地からは一度も震洋が出撃することはありませんでした。しかし、終戦直後の8月19日、震洋艇の信管抜き取り作業中に誤って暴発、数艇が爆発し8名の尊い命が失われました。このような事故も含めて水上特攻兵器「震洋」による犠牲者は、全国で2千5百人以上と言われています。

## 私たちにできること

戦後77年が経ち、震洋という特攻があったこと、私たちの地域にも基地があったこと、そして8人もの尊い命が失われる事故があったことなど、次第に忘れ去られようとしています。

改めて戦争の怖さ・悲惨さを感じ、私たち一人ひとりが平和の尊さを考える必要があります。相手を思いやる心を持って、争いごとのない平和な世の中にしていきたいです。

昭和56年に住民や元隊員などの協力で基地跡に「片浦基地の碑」が建立され、戦死された8名の命日に「有田部隊の会」を中心に、毎年慰霊してきました。

高齢化により会での慰霊は昨年が最後でしたが、今後は地元有志で慰霊を続けながら、戦争記憶の継承に努めていきたいと考えています。



「有田部隊の会」  
地元代表 崎向幸和 さん



## 【万世特攻平和祈念館終戦の日特別企画】

祈念館職員による講話および朗読家と高校生による朗読会を開催します。

- 日時 8月15日(月)
  - ①午前10時30分～正午
  - ②午後1時00分～午後2時30分
- 定員 各時間帯60人



※終戦の日の為、入館無料です。  
※参加には事前予約が必要です。定員になり次第締め切ります。詳細はお問い合わせください。

☎万世特攻平和祈念館 ☎0993-52-3979